

要介護認定 都道府県等職員研修

2024年度(令和6年度)版

企画:厚生労働省 老人保健課 介護認定係

講師:認定適正化専門員 奥住浩代

この講義を受講する前に準備するもの

- ①認定調査員テキスト2009改訂版
- ②介護認定審査会委員テキスト2009改訂版
- ③厚生労働省 認定適正化ホームページに
掲載されている

2024年度「本講義の配布資料」と

「事例1」の審査会資料一式の印刷をお願いします。

*「事例1」の解説は今回はありませんので、
受講中に「審査会資料」として参照されてください。

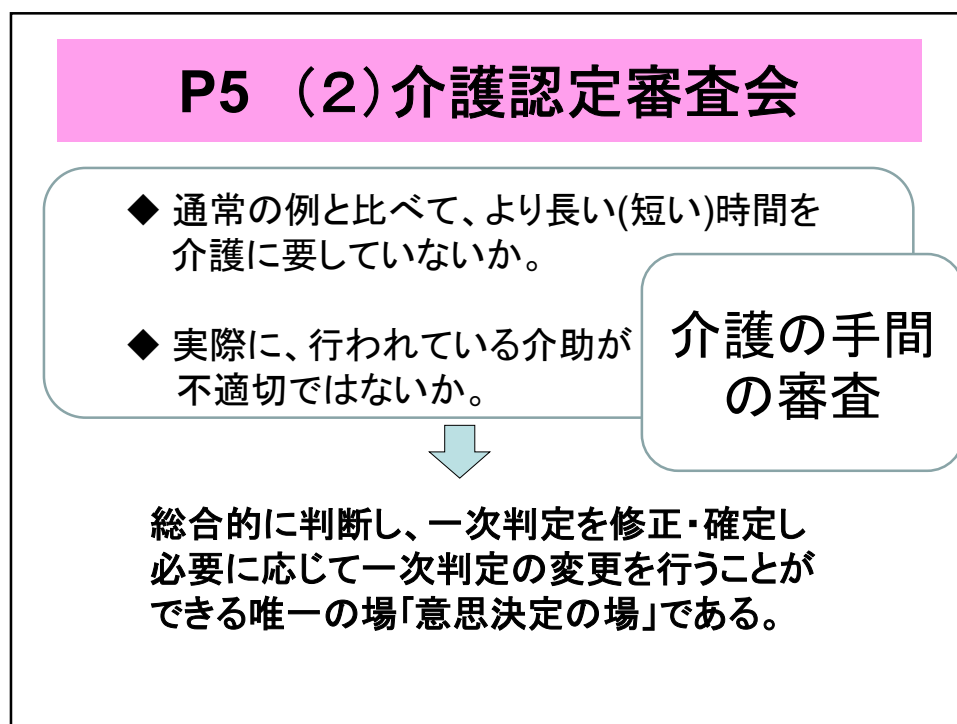
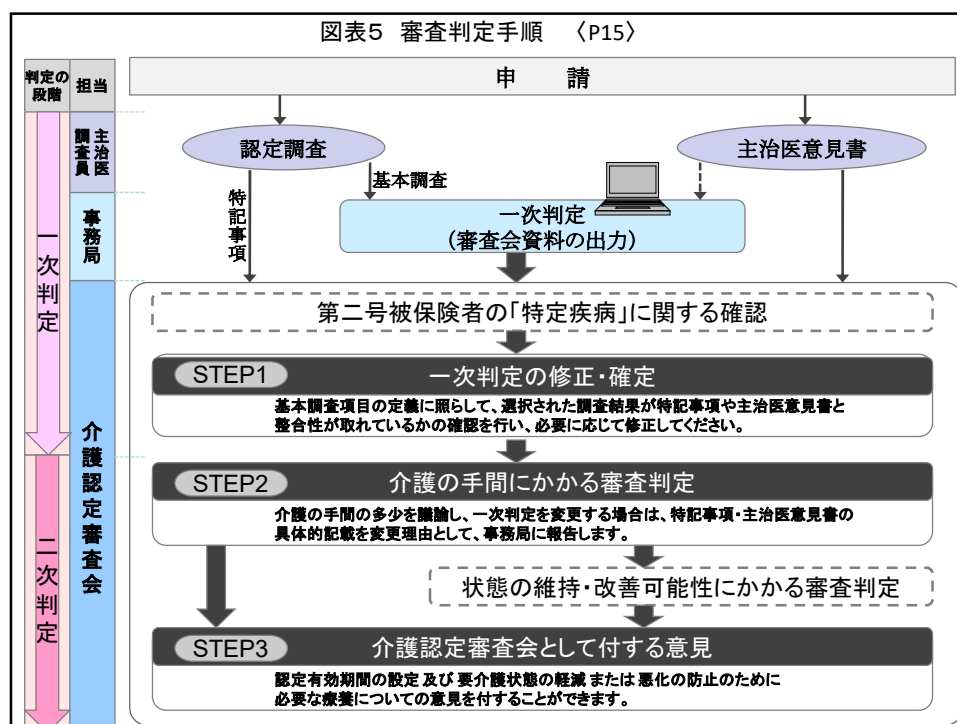
要介護認定都道府県等職員研修

【目的(要約)】

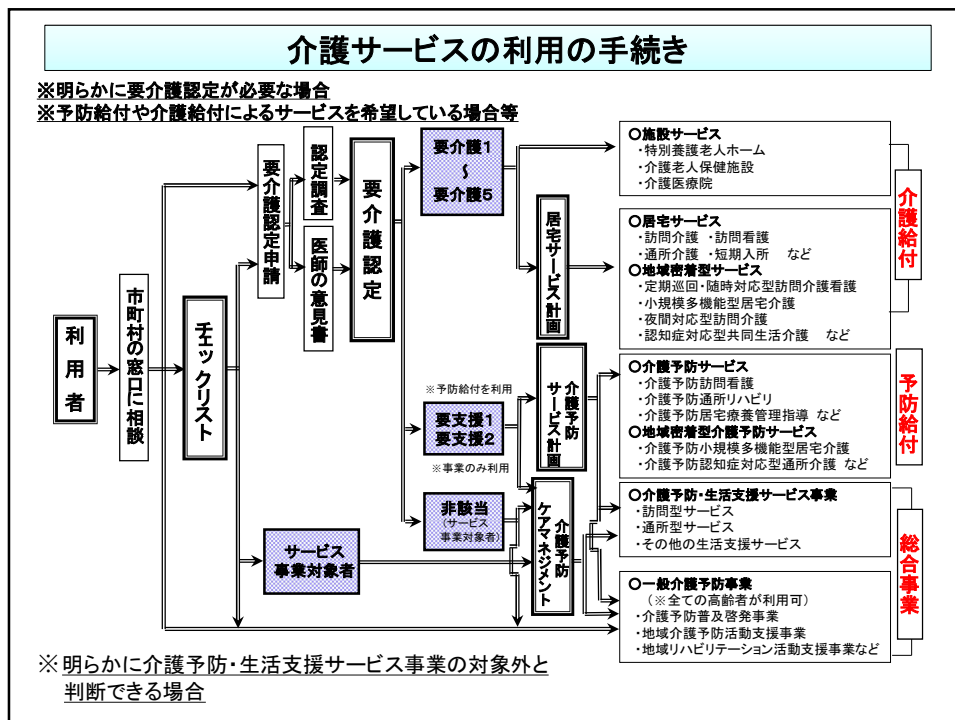
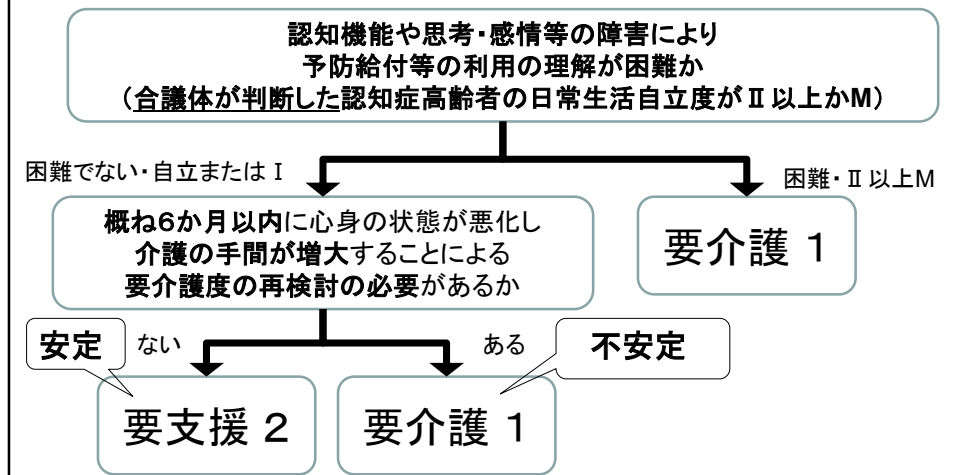
要介護認定制度の現状を理解し、
要介護認定の重要性、
平準化及び適正化について
市区町村等の関係者に伝達でき、
適切な技術的助言ができるようにすること。

介護保険法第1条(目的)

この法律は、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。



要支援2・要介護1の振り分け方 <P28 図表6>



介護保険法第七条第一項 【定義】（要介護状態）

「要介護状態」とは、身体上又は精神上的の障害があるために、入浴、排せつ、食事等の日常生活における基本的な動作の全部又は一部について、厚生労働省令で定める期間にわたり継続して、常時介護を要すると見込まれる状態であって、その介護の必要の程度に応じて厚生労働省令で定める区分のいずれかに該当するものをいう。

介護保険法施行規則第二条 （要介護状態の継続見込期間）

介護保険法第七条第一項の厚生労働省令で定める期間は、**六月間**とする。

・・・余命が六月に満たないと判断される場合にあっては、死亡までの間とする。

※要支援状態の期間も六月間（第三条）

厚生労働省 2020年度 認定調査員能力向上研修会

- | | |
|---|---|
| <p>① 講義 能力向上研修のゴール</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 目指すべきゴール ■ 適正化プロセス記録シートの確認 ■ イントロダクション | <p>④ 講義 認定調査の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 3つの評価軸の考え方 ■ 基本調査の選択における留意点 ■ 基本調査の選択の正しい考え方 ■ 初任者向けツールの活用 |
| <p>② 講義 演習 一次判定ソフトの構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 一次判定ソフトのロジック ■ 手計算による基準時間の算出 | <p>⑤ 演習 審査会委員の立場から検討する
特記事項の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 特記事項の内容検討 |
| <p>③ 講義 介護認定審査会の手順とポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 認定調査と審査会の関係性 ■ 審査会における特記事項の役割 | <p>⑥ 講義 演習 認定調査の適正化プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 適正化に向けた取組方法の例 ■ 課題整理、適正化プランニング |
| | <p>⑦ 講義 演習 業務分析データの解釈</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 業務分析データの読み方 ■ テータ例の解釈 |

3つの評価軸の特徴

	能力	介助の方法	有 無
主な調査項目	身体的能力 (第1群を中心に10項目) 認知の能力 (第3群を中心に8項目)	生活機能 (第2群を中心に12項目) 社会生活への適応 (第5群を中心に4項目)	麻痺等・拘縮 (第1群の9部位) BPSD関連 (第4群を中心に18項目)
選択肢の特徴	「できる」「できない」 の表現が含まれる	「介助」の 表現が含まれる	「ない」「ある」 の表現が含まれる
基本調査の 選択基準	試行による 本人の能力の評価	介護者の介助状況 (適切な介助)	行動の発生頻度 に基づき選択 (BPSD)※
特記事項	日頃の状況 選択根拠・試行結果 (特に判断に迷う場合)	介護の手間と頻度 (介助の量を把握できる記述)	介護の手間と頻度 (BPSD)※
留意点	実際に行ってもらった 状況と日頃の状況が 異なる場合 「日頃の状況」の 意味にも留意する	「実際に行われている 介助が不適切な場合」	選択と特記事項の基準が 異なる点に留意 定義以外で手間のかかる 類似の行動等がある場合 (BPSD)※